



第75回企画展

中国の靈獣百態

会期：2015年10月1日(木)～11月30日(月)

会場：3階企画展示室

古代、中国の神話に登場する吉兆の動物は靈獣とよばれました。またそれは権力を誇示する為政者のものであり、優れた支配者の時代に出現するといわれます。その代表格が幸運を運ぶ四靈や天空の方位を司る四神でしょう。東の青龍・南の朱雀・西の白虎・北の玄武は一度は耳にしたことがあると思います。靈獣には「虎」、「亀」など実在する動物もいますが、その多くは想像上の動物であり、古来よりめでたい動物とされてきました。中国ではめでたいことを「瑞」という字を当てて呼ぶことから、靈獣を「瑞獣」とも呼んでいます。

中国のモノに表現された特異な動物には、靈獣のほかに庶民の願いを叶えてくれる吉祥獣もありますが、悪神である魔獣もあります。今回の企画展ではこれらも含めて「靈獣」として一堂に展覽します。

時代と共に変化する靈獣の表現をご覧頂き、モノに込められた人々の思いを感じ取って頂ければ幸いです。



饗饗文卣 殷後期 高さ31.3cm



灰陶彩画辟邪 六朝 高さ30.5cm

参考館フォーラム

『モノと図像から探る怪異・妖怪の世界 in 参考館』

日時：10月3日(土) 午後1時30分～午後3時30分

講師：小田 木治太郎氏(天理大学准教授)「中国古代の怪獣—万里の長城の内と外—」

齊藤 純氏(天理大学教授)「大蛇と法螺貝—天変地異の原因として—」

安井 眞奈美氏(天理大学教授)「うぶめと姑獲鳥—怪異のイメージを追って—」

会場：研修室 受講料：入館料のみで受講できます 定員：100名(当日先着順)



トーク・サンコーカン(公開講演会)

第240回「中国の靈獣—企画展にあわせて—」

日時：10月24日(土) 午後1時30分～(詳細は4頁に記載)

講師：太田 三喜 学芸員 会場：研修室

第241回「日本の靈獣—蹴鞠の精や疱瘡神の化身など—」

日時：11月28日(土) 午後1時30分～(詳細は4頁に記載)

講師：幡鎌 真理 学芸員 会場：研修室

ギャラリートーク(展示解説)

日時：10月26日(月)、11月26日(木) 午後1時30分～

会場：3階企画展示室



後援：奈良県天理市、奈良県教育委員会、天理市教育委員会、読売新聞社、NHK 奈良放送局

協力：天理大学歴史文化学科考古学・民俗学専攻、天理大学ふるさと会



教祖 130 年祭特別展

「天理参考館の珠玉」

会 期：2016 年 1 月 5 日(火)～3 月 14 日(月)

教祖 130 年祭特別展「天理参考館の珠玉」では、これまで天理参考館が時代・地域を超えて収集してきた世界各地の逸品を一堂に会し、その美術的な魅力、資料性の高さをご覧ください。

世界の考古美術部門より出品する資料は学術的資料としてはもとより、美術工芸品としての評価も高いものです。

特に瓦経がきようこんごうはん金剛般若経にやきよう(重要美術品：日本考古)、コリント式スキュフォス(オリエント考古)は今回が初公開です。また、世界の生活文化部門からは、ネパールの仏画・西アフリカの儀礼仮面(海外民族)、錦絵「東京上野鉄道開業式諸



加彩鎮墓獸一對 唐 高さ左 35.4cm 右 34.2cm



西アフリカの儀礼仮面



東京上野鉄道開業式諸民拝見之図

民拝見之図」(交通文化)など、まさに世界各地の伝統文化を代表する逸品を展示します。なかでも、縮緬地ちりめんじ友禅染訪問着(日本民俗)は人間国宝・三代田畑喜八の作で、初出展となります。常設展ではなかなかお目にかかれない

資料が揃いました。是非、この機会に世界の人の文化や歴史、その背景にある精神世界の多様性を体感していただければ幸いです。(高野)

掲出の縮緬地ちりめんじ友禅染訪問着は外出着とされる訪問着で、格式ある和服のひとつです。金繡の三日月の光に包まれた薄墨色の蕩然とうぜんたる空間に、そよと靡く影絵のような草と、白い花を幽艶に見せる月見草が友禅染で浮かび上がります。作者の三代田畑喜八(1877～1956)は京都市内の京友禅の名家田畑家に生まれ、1892(明治25)年から2年間、日本画家幸野楳嶺こうのぼいれいのもと京都府画学校に学び、のちの写実風友禅の大成の礎がこの時になされたといわれます。1899(明治32)年に三代田畑喜八を襲名、戦後は家督を四代に譲り友禅染の研究に専念しました。最晩年の1955(昭和30)年5月に「友禅」の重要無形文化財保持者(人間国宝)として認定されました。(中谷)



ちりめんじつき つきみそうもんよう ほうぜんぞめ ほうもんぎ
縮緬地月に月見草模様友禅染訪問着
重要無形文化財保持者 三代田畑喜八
昭和30年 身丈160cm

特別記念講演会

『漢・唐の俑(人形)－汗血馬ほか－』
日時：2月6日(土)午後1時30分～
講師：近江昌司顧問
会場：研修室
受講料：入館料のみで受講できます
定員：100名(当日先着順)

ギャラリートーク

(展示解説)

日時：1月6日(水)、25日(月)、2月26日(金)、28日(日)
3月11日(金)いずれも午後1時30分～
会場：3階企画展示室

※一部内容が変更となる場合がございますので、あらかじめご了承ください。



松田顧問の考古余話⑨ ピアスの耳飾り

先日、大和郡山市の縄文時代の遺跡から、粘土を焼いて作った2点の耳飾りが出土しました。耳飾りのひとつは直径約4cm、厚さ1.5cm、重さ約20g、扁平な鼓形で中央に孔が穿けられ、鮮やかな赤漆が塗られていました。もう1点もほぼ同じ形の耳飾りです。この耳飾りは耳朶にピアスを開けて装着するタイプで、耳飾りの周縁は滑車のように溝状に窪み、ピアスを開けた耳朶にうまく嵌まる形態に作られています。当時の土偶にも誇張して表現されたものがあります。この種の耳飾りが多数出土した遺跡で大きさを計った結果、直径がほぼ揃った4グループほどの纏まりがあることがわかりました。世界の先住民にはヒトの成長にともない、サイズの大きな耳飾りに嵌め替えることがあるようです。縄文時代には門歯や犬歯など前面の健康な歯を抜く風習がありましたが、耳飾りもこの抜歯と同様に対面したとき一目で、その人物の出自や社会的な立場などがわかったのでしょうか。耳飾りのサイズに纏まりがあることは、成人、婚姻、出産など人生の通過儀礼に際して、耳飾りを付け替えていったのではないのでしょうか。



耳飾りが表現された土偶

資料紹介

海獣葡萄鏡

海獣葡萄鏡は中国の唐の時代に盛行しました。鏡の背は禽獣と葡萄唐草文で飾られています。写真は奈良時代の杣之内火葬墓から出土したもので、現在当館3階の布留遺跡コーナーで展示されています。出土品とは思えないほど遺存状況がよいのは驚かされます。



天理市杣之内火葬墓出土 8世紀 直径12.1cm

中央の鈕とよばれるつまみは伏せた格好の獅子形に表現されていて、その周囲には鈕を巡るように更に4匹が配されています。また、その外側には、飛翔する6羽の鳥と、葡萄の蔓にとまる6羽の鳥のほか、よく見ると2匹の蝶が表されていて、たいへん可憐な意匠となっています。鏡は全体に漆黒色を呈していますが、この鏡を分析したところ、銅67%、錫27%、鉛4%の白銅質であることがわかりました。つまり、できあがったばかりの鏡は白く輝いていたのです。鏡がどうして黒くなったのか、その理由はわかっていません。この鏡は奈良時代に中国の唐の国からもたらされたものと考えられています。(日野)

資料紹介

子授け祈願人形“泥娃娃”

“娃娃”は中国語で赤ん坊、および人形という意味です。本品は型抜きした粘土を乾燥させ、表面を彩色しています。

中国大陸では古くから、道教の女神である註生娘娘が広く信仰されています。子供を望む女性は、註生娘娘が祀られている娘娘廟に参拝し、神像の前に置かれた泥娃娃をもらい受けます。首に赤い糸を懸けて自宅に持ち帰り(廟前の露店で購入し、一定期間神前に供えた後で持ち帰ることもあります)、無事に子供を授かった場合は、泥娃娃を倍にして元の場所に返すという習俗が約半世紀前まで行われていました。

本品は牡丹の花を抱き、蓮の花の上に座っています。中国では、牡丹は富貴の象徴です。また蓮は、「連」と同音なので「連続」を意味します。つまり本品の絵柄は、「連生貴子」(富貴をもたらす優秀な子供がつつぎと生まれること)を表現しています。泥娃娃には、この他にも魚(裕福になる)・石榴(子宝に恵まれる)・桃(長寿)などの吉祥図案が多く描かれます。本品は2015年現在、当館一階「中国・台湾コーナー」に展示中です。(中尾)



中国遼寧省大石橋にて収集 20世紀前期 高さ24.5cm

トーク・サンコーカン(公開講演会)

◇時間：午後1時30分～ ◇会場：研修室
◇受講料：無料(ただし入館料が必要) ◇定員：100名(申込不要)

第240回 10月24日(土)

『中国の霊獣—企画展にあわせて—』 講師/太田三喜 学芸員

中国の神話には、吉兆の霊獣である「四神」のほかに、「虎」「亀」など実在する動物や想像上の動物が登場します。さらに、庶民の願いを叶えてくれる吉祥獣や悪神である怪獣などもあります。第75回企画展「中国の霊獣百態」ではそれらを一堂に会して展覧しますが、その表現が時代と共にどのように変化するかを考えます。



三彩釉角端坐像 唐 長さ60.2cm

第241回 11月28日(土)

『日本の霊獣—蹴鞠の精や疱瘡神の化身など—』 講師/幡鎌真理 学芸員

第75回企画展「中国の霊獣百態」では中国の霊獣が様々登場しますが、日本でも「霊獣」は活躍します。強いパワーを取り込んでプラスに働かせようと、日本人は霊獣を造形化して身近なものとし、ちょっと怖いけれど可愛い面々をご紹介します。さて、画像の資料は鳥取県の郷土玩具ですが、一体何色でしょう？色にも重要な意味があるのです。答えは会場です。



麒麟獅子と猩々面(昭和初期～30年代)

第242回 2016年1月23日(土)

『古代の鏡—文様に込められた人々の願い—』 講師/高野政昭 学芸員

古代の人々にとって、鏡は単に姿を映すだけの道具ではなく、人間の魂や霊に関わる不思議な力をもつ呪具でした。鏡に映せば人に変身した魔物と仙人を見分けることができ、百邪を退ける力があると信じられていました。鏡背(鏡の裏側)にはさまざまな文様や文字が描かれていますが、一体、何を表しているのでしょうか？



三角縁龍虎鏡 伝奈良県奈良市
富雄丸山古墳出土 径24.6cm
重要美術品

第243回 2月20日(土)

『生活文化から生み出された“イメージの世界”』 講師/吉田裕彦 学芸員

人びとは古来より、自らが創り出した生活文化や世界観をそれぞれの地域で共有して暮らしてきました。伝達手段としての固有の文字を持たなかった地域では、生み出されたイメージをさまざまな手法で表しています。それらは織物に織り込まれた文様や器物に表された文様、祖霊像や神像の姿からもうかがい知ることができます。多様な“イメージの世界”を伝える形やモチーフに注目して、それぞれの文化の一端を探りたいと思います。



霊船布“パレバイ” インドネシア、スマトラ島ラン
ボン地方 長：226.0cm

第244回 3月19日(土)

『石上・豊田古墳群—大型首長墓と群集墳—』 講師/日野宏 学芸員

奈良県天理市北部に位置する石上・豊田古墳群は大型首長墓と約150基の小円墳からなる古墳群です。前方後円墳には石上大塚古墳(107m)、ウワナリ塚古墳(128m)、別所大塚古墳(125m)など100mを超える大型古墳がみられます。大型首長墓と群集墳についてみていきます。



ウワナリ塚古墳石室

11/14(土)・15(日)は「関西文化の日」で入館無料だよ！遊びに来てね！



天理参考館ウェブサイト



世界の生活文化と考古美術の博物館
天理大学附属
天理参考館
TENRI UNIVERSITY SANKOKAN MUSEUM

住所：〒632-8540 奈良県天理市守目堂町250
TEL：0743-63-8414 FAX：0743-63-7721
URL：http://www.sankokan.jp/

開館時間：午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

入館料：大人400円/団体(20名以上)300円

小・中学生200円(学校単位の団体は無料・事前申し込みが必要)